

## 2012MHC 登山講習 新雪の燕岳(2763m)と温泉 報告

11月23日 AM6:30、松本に6名が集合、1台の車に同乗して出発。天候は、曇天模様。山麓は雪を被り、その上部は灰色の雪雲に覆われている。山麓道路から渓谷沿いの蛇行道を中房温泉へ向かう。AM7:45 登山口手前の駐車場に到着。冷雨が降り出す中、AM8:10 全員冬山装備を着用して、出発する。



凍てつく急坂を登る



雪の尾根道を登る



霧に浮かぶ朝の燕岳

森林帯の中、凍てつく急坂を第一、第二ベンチと、ほぼ30分毎に小休止をしながら登る。高度を上げると、徐々にみぞれから小雪に変わっていく。PM12:00 合戦小屋に到着。小屋の内外で昼食を摂り、PM12:30 心身をリフレッシュして雪の稜線を目指す。

低木帯を20分程登ると、主稜線に続く尾根に登り出る。あたり一面冷たい霧が覆い遠望は全く効かない、ここから、道標の赤い小旗を頼りに雪の尾根道を登る。急な勾配を登り詰めPM2:30 燕山荘へ辿り着く。



冬山装備を着用して山頂を目指す 林立する花崗岩石を抜ける 槍ヶ岳を背景にアイゼン効かし登る

早速宿泊手続きをして、室内で暖をとる。この日、雪煙舞う頂上登頂を諦め、皆で食堂のストーブを囲み、飲食類を味わいながら、談話を楽しむ親睦会となった。夕食後、各人冷たい布団に包まり、明日の天気を期待して、早めに就寝する。



天を突く槍ヶ岳が姿を現す



AM9:00 凍てつく山頂に見事登頂



道標とピッケルと槍ヶ岳

11月24日 AM6:00 起床。静かな霧の朝を迎える。朝食後、AM8:15、冬山装備を着用し、霧の晴れるのを期待し新雪を踏んで山頂を目指す。冷たい西風を受けながら進むと、徐々に霧が晴れていく。南に大きな大天井岳 2922mが現れ、北鎌尾根の上空の霧が流れると、天を突く槍ヶ岳 3180mがひときわ高く他の峰々を従えるように、その姿を現した。凍てついた岩道にアイゼンを効かし、林立する花崗岩石の間を通り抜けると、AM9:00 燕岳山頂 2763mに全員、見事登頂する。「おめでとう！」

山頂からは、北方に幾つもの真白な頂が望まれ、その山々の名を確認する。剣、立山、針の木、蓮華岳、鹿島槍、五竜、少し遠く白馬、妙高、その向こうは、日本海だ！。そして東の雲海上に浅間山、八ヶ岳、富士山、甲斐駒ヶ岳が遠く望まれる。皆と登頂の喜びを分ち合った幾つものピーク、思い出の山々に感慨を深くする。冷風の中、20分程山頂に留まった後、往路を引き返しAM9:45山荘に帰還する。



雪の稜線から望む槍ヶ岳 3180m



凍てつく雪の稜線から望む、有明山と遠く雲海に浮かぶ浅間山

AM10:15、燕山荘に挨拶をして、往路と同じルートで下山を開始する。雪斜面の滑落を注意しながら、尾根道を下る。合戦小屋からは、森林帯の急坂を慎重に降り続け、PM1:30登山口に到着する。

この登山口脇の中房温泉で汗を流した後、ここで調理した温かい山菜そばに生タマゴを落とした昼食を摂り、ほっと一息の温泉気分を味わう。PM2:30再び車に同乗し、往路と同じ道を走り、PM4:15松本へ無事帰還、最終解散とする。ご苦労様でした。「初冬の山々の美しさと厳しさを学んだ新雪の燕岳登山講習だった。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則